

兵庫県保険医協会 北播支部 ニュース

2023年9月15日号 No.187

発行者 兵庫県保険医協会北播支部

支部長 木原 章雄

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31

神戸フコク生命海岸通ビル5階

TEL(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

第39回北播支部総会・記念講演

保険証廃止・マイナカード使用「強制」 危険性と問題点を学ぶ

北播支部は6月24日、加東市・滝寺荘(オンライン併用)で第39回支部総会・記念講演を開催し、28人が参加した。支部総会は2022年度の活動報告と2023年度の活動方針を決定するとともに、新たな支部役員体制を承認。新支部長には木原章雄先生(西脇市)が就任した。記念講演では「保険証廃止の問題点とマイナンバーカード普及策の危険性」のテーマで、坂本団弁護士(大阪大学法科大学院客員教授・元日本弁護士連合会情報問題対策委員長)が講演し、足立了平副支部長(三木市)が司会を務めた。



坂本弁護士がマイナンバー制度の危険性を詳説した

坂本弁護士は、マイナンバー制度の問題点を概説した上で、マイナンバーカードの保険証利用とオンライン資格確認を、「マイナンバーカード普及策の切り札」と解説した。

保険証の廃止は、任意であるマイナンバーカード取得の実質義務化であり、「違憲・違法の疑いがある」と指摘。また、オンライン資格確認義務化は、医療機関に大きな負担と責任を課し、利便性もなく、費用対効果の検証もない「壮大なムダ、21世紀のハコモノ行政」であると厳しく批判した。

さらに坂本弁護士は、マイナンバーカードを日常的に持ち歩くことになれば、カードの紛失や不正利用による個人情報漏洩・流出は避けられないと国内外の事例を紹介。情報通信技術が飛躍的に発展した今日、個人情報が流出すれば取り返しのつかない問題になるとして、患者の個人情報を守るという観点でも、医療現場へのマイナンバーカードの持ち込みは極めてリスクが高いと注意を呼びかけた。

講演の最後には、「保険証の廃止は簡単にできるものではない。撤回に向けてがんばろう」と参加者

に呼びかけた。

質疑では、「若い人には問題が理解されにくく、どのように訴えれば良いか」、「なぜマスコミはこの問題を国民に知らせないのか」、「マイナンバー制度自体が個人情報を営利に使いたい外国資本の思惑で進められているのでは」など、様々な意見が出され、活発に議論した。



28人が参加し熱心に学習した

北播支部役員体制(2023年6月~2025年5月)

*敬称略、地区五十音順

支部長 木原 章雄(西脇市)

副支部長 足立 了平(三木市)、林 武志(西脇市)

世話人

(三木市) 神澤 正三、中村 正樹、村上 直樹

(小野市) 柏木 有二、坪田 徹、西山 敬吾、

横田 裕一

(加東市) 曾野 瑞弘、田淵 光

(加西市) 鍵岡 朗

(西脇市) 柳井 映二

市民公開講座「地域から考える『食の安全保障』」

食料・農業を守るからこそ安全保障

4年ぶりの市民公開講座に90人が参加

北播支部は7月22日、小野市うるおい交流館エクラ市民交流ホールで4年ぶりとなる市民公開講座を開催し、市民ら90人が参加した。「地域から考える『食の安全保障』」をテーマに、東京大学大学院教授の鈴木宣弘先生がオンラインで講演し、西山敬吾先生(小野市・北播支部世話人)が司会を務めた。講演の様子と参加者の感想を紹介する。

鈴木教授は、「日本の食料自給率は肥料等も考慮すると10%あるかないか」とし、「海外からの物流が停止したら最も餓死者が出るのは日本」だと現状を解説した。その背景には、自動車産業の利益のために、外国言いなりに農産物の関税を撤廃し、農業を犠牲にしてきた「生贄政策」があり、それが今日の食料安全保障の危機の本質だと詳細なデータを用いて解説した。

「不測の事態に国民を守ることが『国防』なら、国内の食料・農業を守ることこそが防衛の要、それこそが安全保障だ」と強調し、農業を守る政策への転換と、生産者と消費者が共同して地域の食料生産や流通を支える仕組みを作ることが必要だと、参加者にも行動を呼びかけた。

質疑では、実際に地域で有機栽培に関わる方の経験や、学校給食の有機化を進める活動など、地域の様々な取り組みを交えた活発な発言がフロアから出された。

閉会にあたり、木原章雄支部長が挨拶。「食の問題を真剣に考え、行動していく必要性が強く実感さ



鈴木宣弘東京大学大学院教授がオンラインで講演した

れ、『地域から考える』というテーマに相応しい講演をいただいた」と謝辞を述べた。

【参加者の感想】

- ・ 日本政府が正しい方向を失っていることがよくわかった。信じ切るのではなく注意が必要だと思いました。
- ・ 無肥料・無農薬栽培への挑戦に勇気をいただいた。日本の素晴らしい食を世界に発信していく。
- ・ 防衛費のためでなく、農業のための財源が必要と感じました。
- ・ 日本とアメリカの政策により本来の食の安全の問題点が隠されている。しっかり勉強しなければ自分や子・孫の命が脅かされていく。
- ・ 衝撃的な講演だった。若い人は高いから国産品を買わず、外国産の食品を買っている。市民の学習の場の拡大を希望します。
- ・ 恐ろしい現実に憤りと怖さでいっぱいです。真剣に食の安全を考え、健康な食環境を皆で作っていかねばならないと感じました。

患者さんにご案内ください！

健康情報 テレホンサービス

お電話は通話料無料の

0120-979-451

*携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

<2023年10月のテーマ>

- 月曜日 子宮がん検診のすすめ
- 火曜日 ノロウイルス食中毒
- 水曜日 痔瘻について
- 木曜日 インフルエンザの予防
- 金土日 咳と呼吸苦～間質性肺炎～

<2023年11月のテーマ>

- 月曜日 子どもの不登校
- 火曜日 オーラルフレイル
- 水曜日 アキレス腱断裂
- 木曜日 アレルギー性結膜炎
- 金土日 一過性健忘症について

ご希望の会員には、窓口案内用のミニチラシをお届けします。ご要望、お問い合わせは、TEL:078-393-1840 協会担当事務局までご連絡ください。